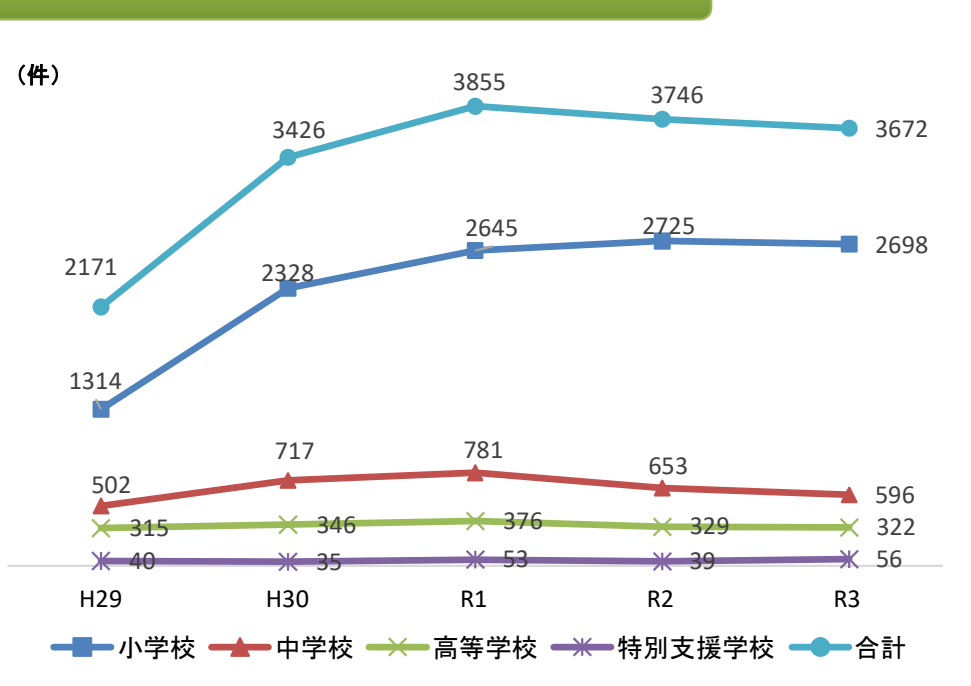
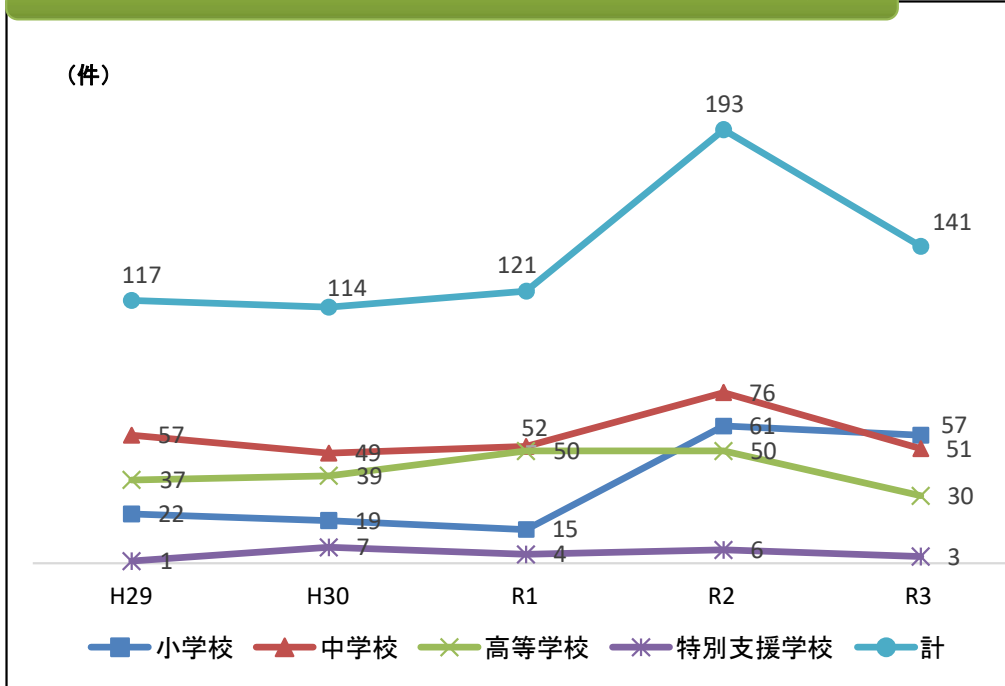


図1 高知県(国公私立)におけるいじめの認知件数



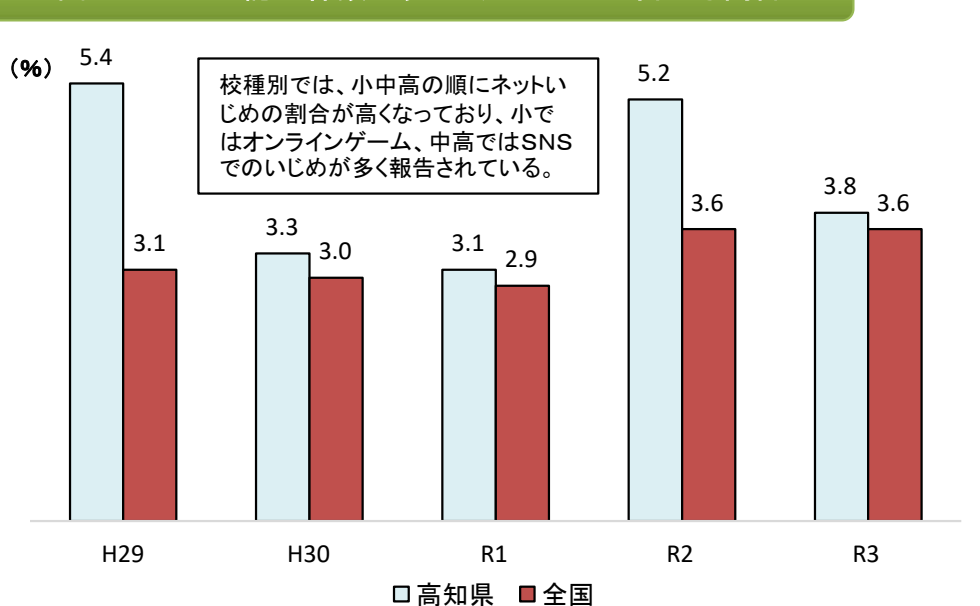
「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」文部科学省

図2 高知県(国公私立)におけるネットいじめの認知件数



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」文部科学省

図3 いじめの認知件数のうちネットいじめが占める割合



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」文部科学省

ネットいじめにおける現状と課題

- 全国におけるいじめの認知件数は、R3年度は過去最多(615,351件)となっているが、高知県では高止まりの状態が続いている(図1)。また、高知県でのネットいじめの認知件数は増加傾向であったがR3年度は減少している(図2)。
- R3年度の全国のネットいじめの件数は過去最多であるが、いじめの認知件数のうちのネットいじめが占める割合では、高知県は全国よりも高い状況にある(図3)。
- ネットいじめは潜在化しやすいため、学校が発見するよりも、子どもが学校に相談して認知することが多く、子どもが相談しやすい環境づくりや、子どもとの信頼関係の構築ができていと考えられる。
- ネットいじめについての事実認定ができなかったものも多々含まれており、対応に苦慮するケースが発生している。

ネットいじめにおける今後の取組

- ・校長会や生徒指導主事会等を通して、積極的ないじめの認知についての理解が校内で図られるよう継続して周知する。
- ・ネットモラルの醸成や問題が潜在化しないためのSOSの出し方、人間関係づくりの取組推進のため、次年度も引き続き「『高知家』いじめ予防プログラム」等の活用を図る。
- ・家庭でのネットのルールづくりの推進について、各学校から働きかける。